噴煙

第6号
阿蘇市文化協会
広報委員会
（印刷所）
（有）ヤマベ印刷

築城四百年を迎えた熊本城を見学

平成20年度一般研修事業

文化協会では平成二十年度一般研修事業として、熊本城築城四百年祭記念行事の「本丸御殿復元」と「細川コレクション永青文庫展示室開設」の公開にあわせ、五月三十日に見学会を計画した。参加希望者が多く二百名余りが五台のバスで会場の熊本城に集合した。本丸御殿は、明治十年の西南戦争で焼失し、その復元の強い期待にこたえて完成公開にいたったもので、金箔を多用した豪華な「昭君之間」を初めとして、ヒノキ造りの大広間など江戸期の絢爛たる空間を観賞することができる。また、隣接の県立美術館では、細川家代々のコレクション「永青文庫」の展示室開設に伴う記念公開を見学、七百年もの間受け継がれてきた細川家のお宝は、郷土熊本の歴史と先人の美意識をしのぶことができる。都合で参加できなかった方は、ぜひ機会をつくり一見されることをお奨めする。当日は、降雨に遭うこともなく、和気藹々とバスのなかで昼食の弁当を食べ、帰路ではおみやげの買物をするなど楽しい一日だった。

熊本城本丸御殿研修旅行

宮部絹代（一の宮）

五月三十日朝、期待に胸を膨らませながら目的地、熊本城本丸御殿に向けて五台のバスが出発、私は三号車のお世話役をさせて頂きました。まずは県立美術館「永青文庫」展示室にて、国宝「時雨螺鈿鞍」に続き、重要文化財「細川頼有の兜」等多種の細川家歴代の当主と夫人達の事蹟に、その時代を生き抜いて来た思いが深々と伝わってきました。どれも皆素晴らしい品々でした。

次に念願の本丸御殿に入り、まず地下に幅広く広がる「闇がり通路」石垣の上に架けられた梁、巨大な柱が見事に立ち並び、その昔を想起させた。次に大御台所から各部屋を繋ぐ長い回廊「大奥」を偲ばせる六十、三十五、二十八、二十四畳の大広間、そして本願の「若松之間」「昭君之間」の障壁画、モチーフ六十枚の花木の天井画全てこの二室、地下に幾重も金箔を重ねた上に、中国故事「王昭君」の絵が描かれ、溜息と目を見張るばかりで感無量でした。清正公の偉大さを感じました。この企画をして頂きましたこと心より深く感謝致します。

文化協会研修に参加して

加藤クラ子（波野）

青葉若葉が目にしみ入る季節、去る五月三十日文化協会の研修旅行が実施されました。研修先は熊本城本丸御殿、県立美術館でした。一の宮の四季彩を九時に出発、バス五台で総勢二百余名の参加。みんな子どもみたいに浮かれた気持ちで出発しました。熊本県民であれば誰もが誇れる我が熊本城本丸御殿の復元は真に喜ばしく思います。障壁画や天井画、各部屋の再現全てに往時が忍ばれ感動致しました。加藤家から細川家への流れ等歴史にうとい私には知らない事がいっぱいです。そんな本でも読んでみようかと思いました。天にそびえるような天守閣を眺めて、これが四百年もの昔建てられたなんてとても考えられません。思わず手を合わせて拝みたくなるような気持ちでした。帰りはキムチの里で買物休憩、手に手におみやげを…。文化協会らしい良い研修設定だったと思います。会長さんを始め役員の皆様の行き届いたお世話に深く感謝申し上げます。

阿蘇市文化協会長　後藤新一

会員の皆様には益々ご清祥のことと思いますが、日頃から文化協会活動に対し、温かいご理解とご協力を賜わり厚く感謝と御礼を申し上げます。

本協会の本年度事業計画中、熊本城内本丸御殿の復元と、県立美術館内細川コレクション永青文庫展示室の開設に伴い、一般研修会を実施致しましたが、予想以上の二一四名の参加者があり、有意義なる研修でありました。建造物や展示品は想像以上の優れた色彩と超越した高度な技術の成果には、目を見張るものばかりでした。常日頃から会員の皆様には、それぞれ目標に向かって、日夜自己研鑽と組織的活動に努められていると思いますが、例年の如く一大事業であります文化祭の実施についても早期に実行委員会を立ち上げ、更に飛躍したステージや展示物品の演出を期待していますので、切磋琢磨して多くの方々の熱意あふれる参画を念願するものであります。

又、会報活動「噴煙」の発行も計画どおり消化しておりますが、紙面と予算の都合上、原稿は指名による投稿を依頼している現状でありますが、各グループ活動状況や他地域との交流会活動など、それぞれの地域の文化活動に役立つ投稿をも期待しています。予算に関しましても市の助成金などをはじめ、個人の年会費負担により限られた収入予算のもとに、最大限の有効な活用をはかり、目的遂行に向かって進めて参りますので、会員一人一人のご理解とご協力、ご支援を切にお願いします。

ステージ部門

楽しい吟詠を目指して

小嶋一誠（湯浦）

生来、歴史や漢詩が好きで、吟界に身を投じ、和漢の名詩を吟じて約四十年、忙しい仕事の合間に何とかこれまで続けてこれた。継続は力とよく言われるが、今日的にはこうした息の長い稽古事はあまり好まれない。とりわけ趣味の世界を超えて、「道」という言葉に出会うと、いよいよ現代社会のスピード感覚や価値観に合わない面も否めない。特に詩吟の練習は、これまで五線譜等は無く、師匠の模範吟を聞き、その音感を頼りに歌って覚えるのが通り相場であった。気の早い私は、若い頃、すぐにでも上達したい一心で、誰でもすぐに歌えるように工夫出来ないものかと師匠に意見した生意気な時期もあった。しかし、最近になって口伝という言葉がようやく分かりかけている。それは、師匠の精妙な技術を口伝えで伝授すると言う直截的意味でなく、元来、伝統芸術はよろず、一朝一夕に上達しない方が良い。奥が深いものは時間をかけて身につけることが、真の上達の道ということだと感じ始めている。吟界の畏友曰く、「師弟の礼節を弁え、長い稽古や下積みを積み重ねて始めて『人間の土台』ができる。人間としての土台つくりを疎かにして、どんなにきれいな声でうまく歌っても、それは形に実が伴わないし、立派な芸道とは言えない。」それを聞いた別な親友は、「難しいことを言うな。今が楽しいならそれで良い。自分が気持ちよく歌えればそれで十分。」と笑って応える。いずれも核心を突いた含蓄ある至言であるが、私は自らは前者の戒めを、吟に親しむ人々には後者の楽しみをと心掛けている。

吟の道では、不惑の年を迎えつつあるが、斯くの如く悟道の境地にはほど遠い。ここしばらくは、初一念の志を忘れず、足元をしっかりと踏み固めながら歩いてまいりたい。

郷土資料読本「くらしのあゆみ阿蘇」発刊に寄せて

山部チモト

平成11年、当時一の宮町文化協会（岩永浩会長）に、「阿蘇神社を中心とした阿蘇の昔からのくらしを記録に残すための部会を設けてほしい。」と提案しました。

伝統文化研究会と名づけて、明治末期から昭和初期頃までの生活全般を収集する事になり、生活記録や資料集めを山部チモト、岩下クミ子、絵・写真を山内スミ子、歌など榎本ひとみ、それに古い事にベテランの嘉悦　渉さん、小野トキエさんの特別協力と、パソコン仕上げを高木義臣さんの応援で16年に一応一冊の本に集録する事が出来ました。

更にこれを阿蘇市全域に深く広める為に、阿蘇市教育委員会を中心に編集委員会を設立。委員長高橋佳也先生により再編成し、このほど「くらしのあゆみ阿蘇」と題し、郷土資料読本として発刊することが出来ました。これから郷土の資料として役立てて頂けたら幸せです。文化協会の方々の御協力を頂き誠にありがとうございました。

観て貰う、聞いて貰うことの喜び

吉田紀美代（西小園）

人は大方の者が、自分の特技・趣味・習い事の成果を皆様に観て貰う事に、喜びややりがいを感じ、観る者も心を揺さぶられ、新しい発見や新たな意欲が湧き上がってきます。相互に心を満たすことが出来ます。そこに文化祭の持つ意味や原点があると思われます。

文化祭を成し遂げるに当たって、会員の皆様の労を惜しまぬ努力や協力の過程にも又、大きな意義を見い出すことが出来ます。時間や人的・物的制約の下、文化祭遂行の為のルールも色々と決められます。展示・ステージ共、プログラムを見ますと、阿蘇市にはこんなにも多勢の文化人がおられるのかと驚くばかりです。が、まだもっと多くの隠れた才能をお持ちの方がおられるのだろうと思われます。私はここ数年、司会の一部を担当させていただいていますが、会を重ねる毎に、よりシンプルに、ナレーション等も省いて淡々と司会進行せざるを得なくなってきております。又、面白いことに、同じ司会席なのに幕やマイク・照明、出演待機の方々・舞台設営・進行係との連携等、周辺の設定や様子が毎年変わります。中で新たな緊張感をもって、微力ながらでも文化協会の一員として協力できることに喜びを感じて取り組んでおります。

これだけ大きな文化祭の開催を主軸に、研修旅行等も含めて、阿蘇市文化協会が難点を一つ一つ、会員の皆様の知恵と行動力で解決しながら、今後ますます充実していきます様に、全員で盛り上げていきたいものだと思います。

山櫻杯大賞 櫻光賞を受賞

受賞式にて

阿蘇中央本部では各種事業が行われておりますが、今回は本年五月開催されました、初代山櫻杯選抜吟詠大会「コンクール」について記します。今年で第二十八回を迎え、これは香雲堂傘下遠くは富士吉田、愛知豊田、四国愛媛、九州各県下に三十の本部、支部があります。その中より新称号・新皆伝に昇格された会員より選考出場できる仕組みになっております。従いまして老若男女問わず出場できます。今年は熊本鶴屋大ホールで新称号者四十六名、新皆伝者二十六名で争いました。審査員で最高点が山櫻杯大賞、次点が櫻光賞となります。本年度阿蘇中央本部新皆伝の榎本和子さんが山櫻杯大賞をも獲得されました。また、新皆伝では竹原増啓さんが櫻光賞を獲得され、阿蘇に大栄誉をもたらして下さいました。故に阿蘇中央本部は、全国の本支部長の羨望の的となっております。私たちはこれに驕ることなく吟道に精進し、精神の修養に勉励する所存であります。

来年平成二十一年六月に阿蘇中央本部創立五十年記念全国吟詠大会を開催します。また、文化協会会員の皆様を始め市民の皆様方の応援宜しくお願い申し上げます。

香雲堂吟詠阿蘇中央本部
酒井国夫

展示部門

継続は力なり

〈書道〉坂田　美千江

書を学び始めて四十年を数えようとしています。皆様に支えられて、永い年月をお知恵をいただき乍ら、励んできたと思います。市政に移り阿蘇市文化協会が設立されて早や四年目を迎えることになりました。年々阿蘇の地の文化の風が本当のものになってゆく姿が誇らしく、嬉しく感じます。

秋の文化祭を成功させるべく、役員の方々が色々と考案されて、大変なご努力とお骨折りをしていただいておりますこと、心から感謝して居ります。合併前の阿蘇町の文化協会では、私も何年か微力ですがお手伝いをさせていただきました。書道では、私塾と、昨年迄有りました生涯学習で地域の皆様と十二年間お勉強させていただきました。今年は市の方針で自主学習になりまして、始めての年ですが皆様と仲良く励んで居ります。書道を含めてすべての文化活動は継続をモットーに研鑽を積まなければ途中で止めてしまいますと、元の木阿弥になってしまうのではないでしょうか。常にその道に努力精進しなければ、人間は弱いもので、すっかり止めてしまうという例が沢山有ります。私事ですが、決して才能が有ったからとか、人より優れているからでなく、永い積み重ねが有ったからだと自覚しております。

皆様方も、何卒ご自分のために切磋琢磨して、許す限り継続してお励み下さい。そして、世界に一つしか無いご自分の記念品を作品として残しましょうね。ご一緒に精一杯頑張りましょう。

一輪の花に　～想～

〈押し花〉渡辺　智子

一輪の花、それはそれぞれに美しさと感動を与えてくれる。どんな小さな花にも、目立つことのない楚々と咲く花にも―。

押し花と出会って二十余年。押し花は今、私の自己表現の一つでもある。先般、阿蘇いこいの村のあじさい祭りの期間、あじさいの花絵と共に、ふるさと阿蘇に織り成す歳事、四季を仲間と共に揺歌を添えて展示しました。先人達が永々と伝承されてきたその一つ一つは、〝阿蘇〟を発進する原風景と思われてなりません。ふるさとを再認識する折々、我が郷はまさに生きとして生ける全ての生命の回帰にも思えてくるのです。人間も、そして一輪の花にも。遠い遠い太古への回帰の道へ続きます。あの太古日本の高天原文明は阿蘇を中心としていたが故に、聖徳太子は自らを『日出る処の天子』と言わせたとか、想いは深くなるばかりです。

方円の水をたたえし我が郷は
太古の祈り今も伝えて　柚歌

＝出展作品＝

・火ふり　迫　あつみ
・阿蘇神社　宮川千賀子
・うなり　今村知津子
・流鏑馬　蔵原　将子
・阿蘇の四季　山本　浅子
・月は昇りぬ　渡辺　智子
・阿蘇の四季（火焚き乙女）　宇野　蕣子
・秋の朝　坂梨シズ子
・野やき　江藤まさえ

阿蘇写友会

〈写真〉小島　良邦

写真を始めて五十年余り、なんと年を重ねたかとびっくりして過去を思い出し懐かしい限りです。色んな方と交じり合い写真の奥をかたり楽しんでおります。

阿蘇写友会も歴史を積み上げ、現在十名で頑張っています。写真の頂点を目指し登りつきたいと、でも登れば登るほど山は高く難しいと悟ります。人物を狙っても、左右いずれがいいのか、特に女性は美しくきれいに仕上げるのが喜ばれますが、私達はその人の個性、深み、心の中まで引き出そうとして狙いすぎ、出来上がりに満足しません。

春夏秋冬、阿蘇の風景、動植物あまりにも広大な被写体に絞りきれなく、あっという間に一年が過ぎます。また翌年、去年の場所、草花、雲海、牛馬、紅葉、朝日、夕日、雲、移り変わる季節をレンズを通して幾度となく通い、心に描いた被写体に出会えたとき、「よし、やった」とバシャバシャとシャッター音、何とも言えない満足感、心が洗われる思いです。

みんな色々な仕事をやりながら、時間をさいて撮影基地めがけて頑張ります。こうして撮った写真を毎月の例会に持ち寄り批評会。次の作品の糧にと勉強しております。

昨年は阿蘇写友会メディアラッシュ。阿蘇広報八月号、第十回阿蘇写友会写真展開催年で朝日新聞、熊日新聞が九月六日朝刊、NHKテレビ九月十二日に放映。嬉しい限りでした。

今度の写真展は来年九月の予定です。又皆の力作、阿蘇の隠れた宝ものが熊本大宝堂地下のアートスペースに並ぶことでしょう。

華道のあゆみ

〈華道〉井手　きみ子

この道へのきっかけは、昭和四十五年に子どもが小学校へ入学しましたので、私も働きながら趣味でお花を習う事にし、初めは正月や祭りなどの行事に生けていました所、昭和五十年に岩下スワ先生の声掛けで毎

《短歌》（ゆふすげ）

・児ら去りて数日を経たり春愁を
　たためば背戸に初蝶の舞ふ　品川　絹子
・遠灯り町の灯うるむ五月雨に
　過ぎし人びといづこに住める　園田　昌子
・昨夜の雨半をぬぐいて濯ぎ干す
　音符のごとき水玉光る　田代富士子
・親不孝詫びつつ遠き母恋ひて
　見上ぐる空にあわき昼月　鶴田美佐江
・戸の音に生け簀の鯉は餌を待ちて
　最短距離を集まりてくる　野上ミツ子
・雨の日の傘が縁の六十年を
　静かに離れて君は逝きしか　松本ユリ子
・日翳れば白さ極まる山ざくら
　歩みとどめて脳裡に納む　森　トミ
・中岳の煙はひくくたなびきて
　五岳の襞をうすくつつみぬ　山本チズ子

遇習って免状を取ったらと言われて、自分自身続く限り習う事にしました。長い年月でしたが、先生から教えて頂いた事が、私の宝物になりました。又、花で礼儀作法も学び、それから花にも強い花、弱い花、やさしい花、見れば皆同じ花ではありません。つながりを持ち、支え合う事の大切さを学びながら生活している所です。

私は仕事を退職し、平成十三年十月に教室を開き、月三回教えています。私の母校中通小学校には、入学式・卒業式の花も毎年生けさせていただき、喜んでいただいています。岩下先生や家庭の協力があったからです。本当にありがとうございます。これからも私自身勉強し、地域や生徒さんのために頑張る事が私の生き甲斐です。文化協会の役員の皆様方、お世話に成ります。よろしくお願い致します。

特別養護老人ホーム「阿蘇みやま荘」で絵画展

阿蘇絵画「火曜会」と一の宮絵画教室が協力して、「阿蘇みやま荘」（黒川地区）で文化協会が後援した絵画展を開催した。この絵画展は同ホームの渡辺氏の要請に応えたもので、入居のお年寄りや同ホーム訪問者に、癒しと憩いの場を提供する目的で計画された。一月から六月まで長期にわたる開催であったが、夫々の絵画グループが三ケ月間を担当し、多くの作品が展示され好評であった。

文化協会では、今後とも会員の作品発表の場としてこのような機会があれば利用していきたいと考えています。会員の皆さんのご協力をお願いします。

事務局だより

事務局長　下村　勝志

●文化協会定期総会が開催されました

平成二十年度の文化協会定期総会が四月十九日（土）に阿蘇市就業改善センターで開催されました。多数の会員が出席され、総会では組織や会費など重要な内容が真剣に討議され、以下のとおり決定されました。

一、第四回文化祭の開催は、阿蘇市立体育館で十一月二日・三日で開催。

二、阿蘇市文化協会の組織図は別図のとおり。

三、文化協会の規約改定について。

①統括常任理事を新たに選任し、任期は一年とする。

（各部門常任理事三名以上の部門では統括常任理事をおく）

②新たに文化協会表彰規定を制定した。

③新たに文化協会慶弔規定を制定した。

④会費について

年会費は部門ごとに一、〇〇〇円とし、他部門と重複するときはそれぞれ五〇〇円を加算する。

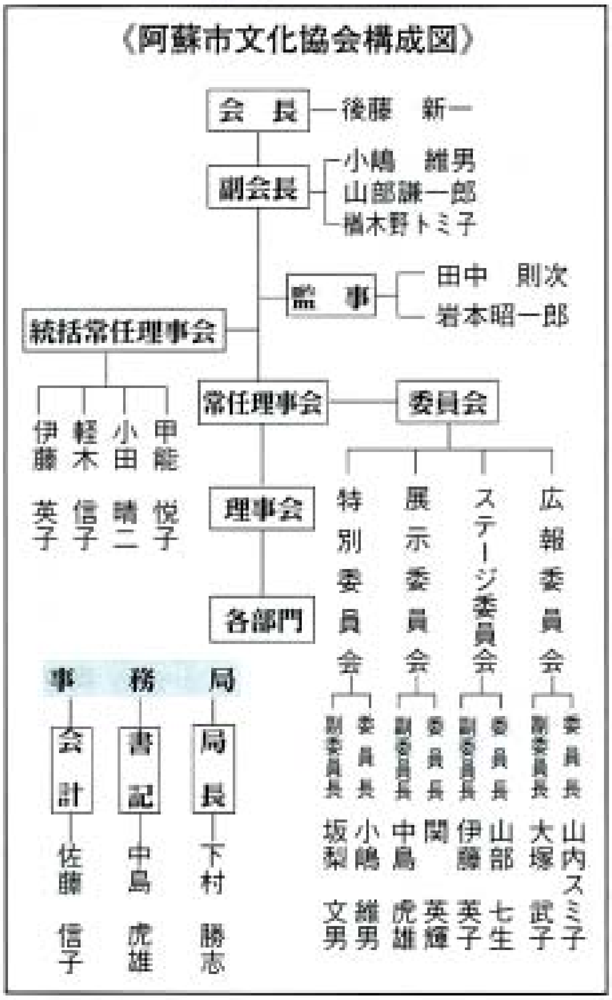
●文化協会理事会が開催されました

一、決議事項は次のとおりです。

①常任理事、統括常任理事を決定（組織図参照）

②分野の変更

③機関紙「噴煙」の編集協力について



会員募集

阿蘇市文化協会では、新会員を年間を通じて募集中です。連絡をお待ちしています。

＊連絡先

阿蘇市文化協会事務局

☎0967－22－2223

（下村）

お詫びと訂正

前回第五回「噴煙」の中で井まゆみ様投稿記事の「舞踊の世界に導かれて」は、「舞踊の世界に導かれて」の誤りでした。お詫びして訂正致します。

編集後記

盛夏の候、会員の皆々様方には、益々御健勝のことと存じ上げます。本年度も文化協会運営に色々とご協力、ご指導下さいまして有難うございます。私達広報部一同、配慮の出来なかったこと等、心からお詫び申し上げます。反省のもとにより良い広報紙をお届けできますよう頑張りますのでどうぞ、ご協力、ご指導のほどよろしくお願い申し上げます。

また、ご寄稿頂きました皆様をはじめ、ご支援、ご協力下さいました方々に心よりお礼申し上げます。

広報委員長　山内スミ子

広報副委員長　大塚　武子

広報委員　斉藤　英子

市原ふみを

岩瀬　洋子

榎本ひとみ